



胃がんについて

- わが国では50歳代以降に罹患する人が多く、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
- 胃がん検診で早期に発見して治療することにより、胃がんで亡くなることを防ぐことができます。検診は自覚症状がないうちに受けることが大事です。
- 胃がん検診は50歳になつたら2年に1度、繰り返し受けてください。ただし、胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなどの症状がある場合は、次の検診を待たず、速やかに医療機関を受診してください。
- 胃がん検診には利益（胃がんで亡くなることを防ぐ）と不利益（偽陰性、偽陽性など）があります。偽陰性とは実際にはがんがあるのに見つけられないこと、偽陽性とは実際にはがんでないのに「要精密検査」と判定されることです。利益が不利益を上回るように受けすることが大事です。
- 胃がん検診で「要精密検査」となった場合は胃がんの疑いがありますので、必ず精密検査を受けてください。
- 精密検査は胃内視鏡検査の再検査です。

※精密検査の結果は市区町村へと報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は、最初に受診した医療機関にも後日精密検査結果が共有されます。(医療機関の検査精度向上のため)

胃がん 内視鏡検診を これから受ける方、受けた方へ



胃がん内視鏡検診に関するお問い合わせ先

八王子市健康医療部成人保健課

〒192-8501 八王子市元本郷町三丁目24番1号
電話：042-620-7428
ファックス：042-621-0279

※この資料は、国立がん研究センターがん対策研究所が厚生労働行政推進調査事業費補助金「検診効果の最大化に資する職域を加えた新たながん検診精度管理手法に関する研究」班、国立がん研究センター研究開発費「働く世代におけるがん検診の適切な情報提供に関する研究」班の協力を得て作成した資料から転載、一部加工修正しています。

胃がん検診を受ける前に 知っておくこと

胃がんに罹患する人（かかる人）は50歳代以降に多く、わが国のがんによる死亡原因の上位に位置するがんです。国が推奨している胃がん検診（胃部X線検査、胃内視鏡検査）は「死亡率を減少させることができ科学的に証明された」有効な検診です。本市においては、胃内視鏡検査のみを実施していますが、早期発見、治療で大切な命を守るために、50歳以上の方は2年に1度、繰り返し検診を受診し、「胃がんの疑いあり（要精密検査）」という結果を受け取った場合には必ず精密検査を受けるようにしてください。
すべての検診には「不利益」があります。がんは発生してから一定の大きさになるまでは発見できませんし、検査では見つけにくいがんもありますので、すべてのがんががん検診で見つかるわけではありません。また、がんでなくても「要精密検査」と判定されたり、放置しても死に至らないがんが見つかったために不必要的治療を受けなければならない場合もあります。さらに、検査によって出血などが起こることがあります。
がん検診の利益（がんで亡くなることを防ぐ）と不利益のバランスの観点から、このリーフレットにある受診年齢、受診間隔、検査項目を守りましょう。

詳細はこちらをご覧ください。

https://ganjoho.jp/public/pre_scr/screening/about_scr01.html



胃がん内視鏡検診の流れ

受付（保険証（資格確認書）の提示、質問票の記入）

問診（症状があれば報告）

※検査対象者の年齢上限はありませんが、医師の判断により、受診希望者の心身の状況等を考慮し、検査をお断りする場合があります。

胃内視鏡検査

- 胃がんの疑いあり
要精密検査
- 胃がんの疑いなし
精密検査不要

必ず受けてください

精密検査（胃内視鏡検査の再検査）

- 胃がん
- 胃がんなし

治療

2年後の検診

▶ 胃内視鏡検査

口または鼻から胃の中に内視鏡を挿入し、胃の内部を観察する検査です。検査前に喉の局所麻酔などを行います。検査時に疑わしい部位が見つかればそのまま精密検査として生検（組織を採取し、悪性かどうか調べる検査）を行いう場合があります。その場合は保険診療となり自己負担が発生します。

- ・検査当日は朝食が食べられません。
- ・常用薬、アレルギーがある場合はご相談ください。

▶ 精密検査は胃内視鏡検査

精密検査は、胃内視鏡検査の再検査となります。検査で疑わしい部位がみつかれば、生検（組織を採取し、悪性かどうか調べる検査）を行う場合もあります。

▶ 50歳になってから、2年に1回、内視鏡による検診を繰り返し受けることで、胃がんで亡くなることを防ぐことができます。

胃がんの中には急速に進行するがんもあります。早期発見のために必ず2年に1度、繰り返し検診を受けてください。胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなどの症状がある場合には次の検診を待たず、速やかに医療機関を受診してください。